

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立階上小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0023

宮城県気仙沼市長磯鳥子沢23番地

E-mail hashikami-sho@kesenuma.ed.jp

Website http://www.kesenuma.ed.jp/hashikami-syou/?page_id=27

幼児児童生徒数 男子 110名 女子 91名 合計 201名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

「海と生きる」をテーマとする気仙沼市においては、ESDに着目し、持続可能な気仙沼を担う人材の育成を図っている。そこで本校では、「海洋教育」「環境教育」「防災・減災教育」「スローフード(食育)」等の領域を柱に、総合的な学習の時間を中心に、「理科」「社会科」等の各教科や特別活動などに関連させながら、取り組んできた。具体的には以下の内容となる。

① 環境・海洋教育関係 (5年生)

学区内の岩井崎の海岸で磯に棲む生物調査を実施した。震災後初めて海で活動を行い、磯の生物多様性を感じる活動となった。本地域の児童にとっては海に親しむ原体験が、震災により不足している状況であり、気仙沼水産試験場から職員を講師に派遣していただき、磯に棲む生き物たちの生態や環境の豊かさについて話をしていただいた。海を利用するという活動では、「わかめの養殖体験」を行い、働く人々の工夫や努力、自然の豊かさや海の恵みについて探求した。10月に種はさみをしたわずか数センチのわかめの種が、半年後には2m近くも成長することに驚き、実感を伴う活動となった。

② 防災・減災に係わる学習（５年生）

地域の方々（自治会長等）と一緒にタウンウォッチングを行い、それをマップにまとめ、発表会を実施した。アクサユネスコ防災・減災プログラムとリンクさせ、多くの方に見ていただくことができた。日常の中で見落としがちな危険箇所をじっくりと見ることができ、地域の方と情報の共有化も図ることができた。この活動は、階上地区総合防災訓練における発表にもつながり、保護者を始め多くの地域の方に発表を聞いていただくことができた。

③ スローフードに係わる学習（全学年）

6年生の地元食材を利用した店舗への取材活動、5年生の水産業に関わる学習、4年生の米作りの活動等を進めながら、2月に「海のフォーラム」を開催し、地元食材の豊かさとそのを支える自然環境、食材に関わる人の努力や工夫等をまとめ、発表した。自然と人とのつながりを重視し「自然豊かなふるさと階上」を持続可能なものにするために、今私たちは何をしなければならないか考えるきっかけとなった。参観した地域住民ゲストティーチャーにとっても未来を担う子どもたちの話にじっくりと耳を傾けていただくことができた。



① 磯の生物調査



① わかめ養殖体験活動



② タウンウォッチング



② 防災マップ発表会



③ 茶豆栽培(種まき)



③ 米作り(田植え体験)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

1. www, facebook. com/RenkystBTK(マイクロプラスティックの授業で使用)
2. 海の幸を未来に残す会記事(持続可能なマグロ漁の学習に使用)
3. nikkei web news (水産業の資料として利用)
4. 各全国紙, 地方紙新聞

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、総合的な学習の時間を柱として各教科との横断的な関連性を重視し、教育課程の全活動を通して計画・実施している。また、次年度に向けた年度末の話し合いを通して、改善策を提案、共有化を図ってきた。学年の発達段階や系統性を踏まえ、カリキュラムに変更を加えながら取り組ませている。海洋教育では新たに「海に親しむ活動」を加え、より興味・関心が高まるように改善した。また防災教育でのマップ作りの一部を前学年での活動を基に、児童の発達段階を考慮したプログラムになるように改善を加えた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

体制としては、校長のリーダーシップの基、全職員に特色ある学校全体の教育活動として、生きる力の育成や総合的な学習の時間を推進することを伝えている。また教員の指導力を高めるために、校内での教員研修の充実を図り、研修報告等で共有化を図っている。地域の人材活用では、公民館との協働教育や地域の専門機関との連携がとれるよう、連絡調整を図ってきた。これらが継続的につながっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部における評価としては、各活動終了後に担当者が反省を行い、朱書きを蓄積する。その後、各学年の反省をもとにESD, ユネスコスクール, 総合的な学習の時間のメンバーで十分に話し合いを行い、反省点等を拾い上げる流れで進めている。

外部からの評価については、講師として参加いただいた地域の方々や専門機関の方々から振り返りの場面でアドバイスをいただき、改善の参考としている。保護者からは、学校評価に関わる項目の中で「総合・ESDの活動」について意見をいただき、次年度の計画作成の参考としている。

成果としては、地域を教材とした学びが、地域の担い手を育てる教育として意味のあるものだと概ね理解をいただいている。課題としては、より効率的な体験活動のあり方、時数の調整が課題となっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

授業参観や行事の際に発表会を開催し、保護者・地域の人に参加してもらい、活動に関わる情報や児童の学びの成果を発信してきた。児童と地域の方が互いにコミュニケーションを図ることで、地域との関わりを深めることができた。逆に地域の方々にとっては、学校の組織や ESD 活動に対する認識も深まり、児童が地域の後継者になるという意識や防災の意識を高めることができた。今後は web 上での発信にも力を入れていきたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地元企業や NPO と連携し、「スローフード(食育)、海洋教育、防災・減災教育」など地域に関わる領域で、多くの支援をいただき、持続可能な視点から児童に考えさせることができた。また安全マップ作成については、一緒に歩いて調べるなど地域の方々との協働的な活動を要素に取り入れたことは、子どもたちにとっても地域の方にとっても、互いに意識を高め合うことにつながっている。

○主な連携先

宮城教育大学、東京大学海洋アライアンス、東京海洋大学、気仙沼スローフード協会、階上公民館、NPO 森は海の恋人、魚食を普及させる会、気仙沼市総務部危機管理課、気仙沼水産試験場、階上地区防災教育推進委員会、その他

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成29年度については、気仙沼市内の学校とのネットワークによる研修や「環境・海洋・防災・食育」などについて同じような領域の学校との情報交換などを実施している。特に海洋教育に関しては市内の数校と一緒に発表会を合同で行うなど情報を発信している。また防災については、同じ学区内にある階上中学校との連携を十分に図り、合同防災訓練や小中学生による児童生徒の交流活動を実施している。防災教育においては、震災以降、熊本や神戸との交流を継続し、情報を共有している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

防災教育「タウンウォッチング」では、地域の方々と一緒に地域の良さや危険箇所を歩いて確認する活動を行い、地域について確かな知識を得ただけでなく、コミュニケーションを図りながら地域の方々と関わりの大切さに気付くことができた。また、それを基にして総合的な学習の時間の発表を行い、児童の発表力やコミュニケーション能力にも高まりを感じた。さらには防災安全マップについての発表を階上地区総合防災訓練の一時避難場所で行うことで、地域の住民と一緒に防災について考え、意識を高めるきっかけとなった。

個人の探究学習を通して、水産業や防災に関する課題に気付き、さらに詳しく調べようとする意欲や情報収集能力等が高まったと考える。児童の学習活動に携わった地域住民・保護者の多くは、児童が地域の後継者であるという意識や防災意識を高めることができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

【1・2年生】地域の特産品である「茶豆」の種まきや収穫等の体験的な活動や茶豆の成長過程の観察を通して、栽培の苦労や収穫の喜びを味わう。また自分たちが生活する本地域の豊かさを感じ取りながら、生産者の方々と交流を図る。

【3年生】「岩井崎」の磯をフィールドに、生態系（生物多様性）とそれをはぐくむ海辺の環境（水質等）との関わりに着目し、生物調査を行う。また農業水路としての川の役割や農作物との関わりについて学ぶ。さらに「名人発見！ぼくらの階上」では、農業や水産業に従事する方から「地域」と「食」との関わりを学ぶ。

【4年生】地域の水田をフィールドに「米作り農業体験」や「観察学習」を行う。米作りを通して課題を設定し、自然環境と稲の成長の関わりや生産過程、流通等について理解する。また本地域の暮らしと関連させながら米の役割を考え、探究活動を行う。

【5年生】「ワカメ養殖」など地域の水産業に着目し、水産業とくらしや地元食材と環境のつながり等を課題にして探究活動を行う。また東日本大震災による大きな被害を受けた本地域では、持続可能な地域社会を担う人材育成が必要とされることから、「地域防災マップ作り」を行い、地域の方と学区内を歩き、危険箇所や避難所等の確認をする。児童が作成したマップの発表に対して地域の方々からアドバイスをもらい、完成度を高める。

【6年生】「スローフードを知ろう」では気仙沼市のスローフード推進に関わる方々への取材を行い、実際に取り組んでいる店を訪問する。さらに学習旅行で訪れる岩手県盛岡地方のスローフードの取組や考え方と比較し、学びを深めていく。また「味の方舟」の学習では6年間の食育学習の集大成として、気仙沼の食の魅力をも未来に伝える取組を考え、具体的な実践を提言する。